

狭山情宣行動

今年も「狭山事件の再審を求める市民集会」が中止となりましたが、一人でも多くの人に狭山事件を知ってもらい、石川さんの無実を晴らすため、6月28日に「狭山事件の再審を求める上野駅前情宣行動」に取り組みました。

今回も情勢を踏まえ、声を出さないスタンディング形式としましたが、前回の総括を踏まえ、更に良い伝え方はないか狭山青年共闘会議で議論を重ねてきました。その結果、情宣文を録音し、スピーカーで流す形式で取り組みました。

当日は、コロナ禍にもかかわらず、多くの仲間が集まりました。参加者を含め、一人でも多くの人に、事件のことや再審のことを周知できました。

今後、狭山事件のみならずあらゆる差別に反対する運動を進めていきますので、皆さん積極的な参加をよろしくお願いいたします。



東京清掃労働組合

第45回組織集会

真剣に仲間に訴えかける書記長と次に備える副部長



第45回組織集会は、日本教育会館にて6月20日に開催されました。

開会に伴い主催者を代表し、江森中央執行委員長よりあいさつがありました。

その後の各区報告では、一組本庁支部・杉並支部・品川支部より、各職場の現状と課題、今後の展望について報告がありました。また、私たち青年部も、代表者2名(小坂書記長、山口副部長)が青年部報告をしました。

小坂書記長からは、「コロナ禍での歩みと青年が直面している課題」について、コロナ禍が青年部運動に与えた影響によって生まれた葛藤に触れ、「情勢に対し、腐らず、あきらめずに今は充電期間という感覚をもち、職場で今やれることを模索していきましょう」と報告をしました。そして、山口副部長は「仲間に伝えたいこと」として、「労働組合の根幹は助け合いです。そのはずであるのに、周りを見渡してみると助け合うはずの仲間同士で足の引っ張り合いが起こっています。争い合うのではなく、支えあっていきましょう」と訴えてきました。

知識の集積場「メーデー」

皆さんは、「メーデー」を知っていますか。

毎年5月1日に開催している式典とデモ行進ですが、その起源を今回はお伝えしたいと思います。

1886年5月1日、アメリカ・シカゴの労働者が8時間労働制を掲げて(当時は12時間労働も当たり前だった)ゼネラルストライキ(全産業による一斉ストライキ)を決定しました。

そして、この闘争を国際的なデモンストレーションの日と定め、全世界に広め「闘うメーデー」として発展してきました。メーデーは、決してパレードや祭典ではなく、労働時間短縮をはじめとした労働条件の改善を勝ち取るための労働者の統一行動日のことです。私たちはまだまだ前のように8時間労働をしているのも、こうした労働者の先人たちのたたかいから生まれたものなんです。

東京清掃青年部では、「闘うメーデー」の歴史と伝統を継承し、日比谷野音で開催されるメーデーには、作業着を着用して結集します。そして私たちの「生命と権利」を守るため、合理化反対職場闘争と結合させ、全ての労働者と連帯し、メーデーを取り組んでいます。

第92回日比谷メーデーは、残念ながら組織全体での取り組みになりませんが、私たち本部青年部は、メーデー運動を次になげていくため、新橋で開催された情宣行動に参加してきました。当日は他産別、他単組の仲間とともに、コロナ禍で困窮する労働者を支え、団結を強化する意思統一を図ってきました。

